



5月7日

創意工夫で生産性向上、6人が受賞

文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞を市内事業所の6人が受賞しました。

受賞したのは、明光化成工業株式会社(明智町)の荻野典昭さん、佐藤いづみさん、中垣めぐみさん、伊藤雅一さん、渡邊慎一さんと、株式会社 UACJ 金属加工恵那工場(長島町)の宮川成一さん。生産工程の工夫などで、生産時間の短縮や不良個数の減少につなげました。

同賞は、創意工夫により技術の改善向上に貢献した方を表彰するもので、全国で965人、県内では24人が受賞。明光化成工業株式会社は16年連続、株式会社 UACJ 金属加工は2年連続の受賞です。



5月3日

大正村が明智光秀に染まる

明智光秀ゆかりの地である明智町で、恒例の光秀まつりが開催されました。

武将行列には、よろいかぶとや着物に身を包んだ子どもたちに加え、日本大正村の村長を務める女優の竹下景子さんも参加。山車に乗車して沿道の歓声に手を振って応えていました。小坂市長は「次の大河ドラマは明智光秀が主役。今後もっとPRするため皆さんの力を貸してください」と、さらなる盛り上がり期待を込めました。

会場では、東美濃山城トークやチャンバラ合戦 IKUSA、戦国ワークショップなどが行われ、汗ばむ陽気の中、多くの来場者でにぎわいました。



4月28日

例年より早く望郷の森が山開き

中野方町にある笠置山「望郷の森」が例年より早く山開きし、関係者が安全を祈願しました。これは、来訪者の要望を受け、大型連休に合わせて山開きしたものです。今年から管理人となった平林悠基さんは「日本中や世界中からお客さんが来るキャンプ場にしたい」と抱負を語りました。

この日は親子向けの料理ワークショップも開催。主催者が募集して集まった親子連れ4組が、台湾のハンバーガーを五平餅のタレでアレンジした料理などを作ろうと、力を合わせて作業していました。今後も子ども向けの体験イベントなどが予定されています。



4月21日

恵那峡ハーフマラソン盛況

武並町の岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場を発着点として、第18回恵那峡ハーフマラソンが開催されました。ハーフマラソンコースと3キロロードレース、3キロジョギングコースなどの部門に合計3,061人が参加し、日頃の練習の成果を披露しました。

北海道札幌市から沖縄県宜野湾市まで全国から参加があったこの大会。運営を支えたのは各種団体の関係者をはじめ、地元的大学生や高校生、中学生ら多くの市民ボランティアでした。走り終えたランナーにはおにぎりや豚汁などが無料で振る舞われ、走り切った疲労感を癒やしていました。



5月18日

色鮮やかに早乙女が田植え

長島町正家で、恵那の里次米お田植え祭が開催されました。これは、約1,300年前、恵那から都にお米が献納されたという史実を再現した祭りで、今年で8年目。

みこによる舞の奉納の後、お田植え唄に合わせてお田植え踊りが披露されました。踊りには、恵那農業高等学校生徒や地元の小中学生や幼児が参加。両手に苗を持ち斎田の周りを踊りました。その中を、JA職員や恵那農業高等学校生徒らが、白装束の衣装で、一列になり苗を植えていきました。

早乙女たちの紅白と青の衣装が田に映える中、来場者らは、古代に思いを馳せながらカメラを構えていました。



5月7日

創立者生誕の地で120周年祝う

岩村町出身で近代女子教育の先駆者として名高い下田歌子が創立した学校法人実践女子学園(東京都日野市)が創立120周年を迎え、岩村町で記念式典を行いました。創立者の思いを再確認し、地元の皆さんと一緒に記念日を祝おうと企画され、関係者140人が出席しました。

記念碑の除幕に続き、同学園の恵那市親善大使である鈴木隆一さんと、岩邑うた子会の渡会直子会長、丸山照子副会長に感謝状が贈呈されました。岩村町獅子舞の披露や岩邑中学校合唱部と恵那南高等学校吹奏楽部による学園歌の演奏もあり、学園、行政、地元住民が共に記念の日を祝いました。



5月13日

これからも見守りお願いします

武並小学校で武並町見守りボランティア対面式が行われ、全校児童とボランティアが顔を合わせました。

最初に、児童代表の水野夢さん(6年生)が「日頃の感謝とこれからもお願いしますという気持ちを伝えましょう」と全校に呼び掛けました。地区ごとに分かれた対面の場では、一人ずつ自己紹介をして、笑顔でお互いの顔を確認していました。

武並町見守りボランティアは、平成26年度から始まり、約160人が登録。地域の集合場所で毎朝「行ってらっしゃい」と見送ったり、登下校に付き添ったりして、子どもたちの安全を見守っています。



4月21日

テント村がリニューアルオープン

飯地高原自然テント村が2年間の再整備を経てリニューアルオープンし、開村式が開かれました。飯地自治区協議会会長の額額佳恭さんは「町民の暮らしとタイアップして、飯地ならではの価値を提供したい」と話しました。

テント村は、飯地自治区協議会が整備計画を策定し、宿泊キャビンの新設、管理棟の改修、テントサイトの排水工事を行いました。テント村の中心に新設されたキャビンには天窓があり、夜には満天の星空を見ることができます。また、まきストーブが設置され、冬も快適に過ごせるようになりました。